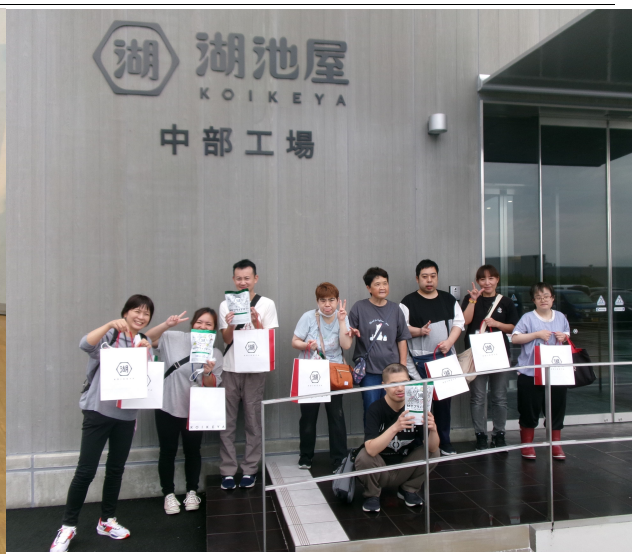




（ぐっどらんど　左：デイセンターあゆみの家観劇会に参加 9／19　、右：1 日外出 9／28　）

あゆみの家

Ｎｏ．１４９号

西濃地域の障害者グループホームの現状

今年十月一日現在、西濃2市9町に、四十一か所の障害者グループホームがあり、障害をもった方々が利用されています。一か所で複数の住居があるグループホームもあるので、住居の数では五十か所を超えています。そして、その定員の合計は、約六二〇人になっています。（岐阜県庁のHP調べ）このうち、五年前の一〇月以降に、事業所指定を受けたグループホームは、二十四か所、定員で約三一〇人で、この五年でこの地域のグループホームは定員ベースでも倍以上に増えていることになります。

このことは、障害をもった方々の生活の場の選択肢が増えてきていることで、大変良いことであると思います。

しかしながら、心配な状況もあります。昨年、ある市町の自立支援協議会に参加したとき、これからグループホームを開所しようとしているある事業者のグループホームの事業計画についての説明を聞く機会がありました。

その説明の中で、驚くべきことを聞きました。その事業者は、高齢者のグループホームをいくつか運営してきている事業者でしたが、今回初めて障害者のグループホームを開設するということでした。半年ほど後に事業開始する予定だというのですが、そこで勤務する職員はまだ決まっていないとのことでした。職員体制は大丈夫なのかと質問したところ、これから求人して、採用した者を、高齢者のグループホームで数ヶ月研修した上で、配属するとのことでした。さらに、そのグループホームでは、医療的ケアの方や強度行動障害の方も受け入れる予定だとのことでした。障がい者の支援について、全く理解していない事業者だと思いました。そのような体制で、強度行動障害などの重度の方の支援ができないのは明らかだと思いました。

この五年間で開設されたグループホームのうちの九割以上が、株式会社などの営利法人によるものです。株式会社だからすべてダメというわけではありませんが、利用者支援の内容より、収益を上げるほうを優先する傾向があるように思われます。

国も、グループホームが急増していることと、その支援の質について問題視しているようで、来年度の報酬改定において、グループホームの指定基準などを厳しくする方向で検討されているようです。この地域のグループホームの支援の質がより良くなるよう、注視していかなければならないと思います。

社会福祉法人あゆみの家　〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原 2066-2 ／ TEL0584-22-4333（代）

理念は道しるべ

理事　名和　桂子



今年七月二五日にあゆみの家の合同職員研修会が行われました。今回で六五回目ということでした。年二回その時にふさわしいテーマを選び、学びの時を持ち続けていることはとても大切なこととしてこれからも是非続けていってほしいと思っています。

その大切な学びの場で今回、記念講話の依頼があり大変驚きましたし、とまどってしまいました。今回は「理念を実践へ」というテーマで、それに基づいてあゆみの家の設立当初に関わった者として、どのような経緯で始まったのか、その頃、どんな様子だったのかなどを話してほしいということでした。私のような者の話が皆さんの学びのお役に立つかどうか心配でしたが、立ち上げに少し関わらせていただき、創始者のボーマン先生のお働きを身近に触れさせていただいた者として思い出話を含めて当時のことをお話しさせていただきました。口が渇くほどに緊張しましたが皆さんは熱心に聞いてくださいました。会の終了後にも、たくさんのアンケートを寄せて下さって感謝でいっぱいです。五五年もたつとボーマン先生をご存知ない方もたくさんおられますので、先生のお人柄、信仰、生き方に心響くものを感じて下さった方もおられ、「ボーマン先生に会いたかった。」と書いてくださいました。また、先生の熱意に動かされてたくさんの方々が共に働いてあゆみの家が始まり、そして今でも多くの方々が支えて下さっていることが十分ではありませんが、伝えることができたのではないかと思っています。

理念をいろいろな言葉で表現しますが、私は理念とは「どう生きるか。」「何を大切にするべきか。」といった迷った時の道しるべになるものではないかと思っています。

日頃職員の方々があるときは迷い、また、葛藤しながら真摯にお仕事に取り組んでおられることを知っています。外部講師の森下先生が分析してくださった資料の中に「職場のチーム関係」という項目がありました。あゆみの家の職員は「信頼できる仲間がいる」という設問では９２．９％と肯定していて全項目の中で最も高い評価でした。「相談しやすい」「助け合える」「困ったときに支えあえる」という職員の中に信頼関係が築かれているということで、とてもうれしく思いました。これからもどうぞこの関係を大切にして孤立することなく、共に担い合っていってほしいと思いました。

森下先生の指摘の中でもう一点、日本の社会構造と課題として、福祉をとりまく環境はこれからますます厳しくなる見通しということでした。国は現在の延長線上の運営を許さず、優秀な法人に委ねたいというのが政策だそうです。ふるいにかけられる状況となっていくでしょう。あゆみの家も理念にしっかり立ってこれから何をなすべきか、どう進むか、あゆみの家でなければできない施設、選ばれる施設を目指して進んでいってほしいと願っています。これからも神さまの豊かな祝福がありますよう祈り続けたいと思います。

「パワーチャージ」　おやつ作り

デイセンターあゆみの家　生活支援員　藤澤美里

十月十七日の土曜活動日は、各グループで計画を立て、おやつ作りを行いました。それぞれ「プリンアラモード」「デコレーションケーキ」「お好み焼き」「たこ焼き」に決定し、材料の買い物から当日の調理まで、みなさんに沢山活躍していただきました。それでは、各グループの活動の様子を紹介していきます。

プリンアラモードのグループでは、プリンをデザートカップに盛り付け、フルーツやお菓子、アイスクリーム、あんこなど、お好きなものを自由にトッピングしていきました。みなさん大好きなプリンですが、普段食べているものでも工夫一つで特別なおやつに生まれ変わります。自分好みに盛り付けた世界に一つだけのプリンアラモードは格別な味わいだったと思います。

デコレーションケーキのグループでは、生クリーム作り、フルーツのカット、スポンジへのコーティングなど、パティシエさながらの難しい調理工程がいくつもありましたが、みなさん素晴らしい力を発揮してくださいました。特に、生クリーム絞りの工程では、ケーキの美しさを左右する繊細な作業が求められましたが、優しい力加減で絞ってくださり、とても綺麗な仕上がりとなりました。

お好み焼きのグループでは、これまでの活動経験より、甘いおやつよりも塩気のものを好む方が多かったことから、お好み焼き作りに決定しました。当日は、みなさん朝からおやつ作りを楽しみにされおり、ウインナーをはさみでカットしたり、卵を割ったり、粉に水を入れてかき混ぜたりと、順番に参加していただきました。みなさんとても意欲的で、「やりたい」という思いが強く見られました。調理を頑張った分、美味しさもひとしおで、多くの方がおかわりをされていました。

たこ焼きのグループでは、「まずは見た目から」ということで、ねじり鉢巻きを頭に付け、気分と気合を高めてから調理に取り掛かりました。生地を竹串で返す工程では、慣れている方、初めて挑戦される方もおられましたが、仲間と焼き器を囲み、少しずつ焼き進めていく時間は、賑やかさや楽しさだけでなく、仲間との一体感も生まれていたように感じました。

どのグループも仲間と協力し合い、無事、美味しくて特別なおやつを完成することができました。普段は、企業からいただいている仕事に毎日一生懸命に取り組まれているみなさんですが、土曜活動日には、一日を通して作業をお休みします。平日とは違う、一日がかりの楽しい活動は、仲間との思い出を作るだけでなく、「明日からも頑張ろう」と思えるパワーやエネルギーを養うことにも繋がると感じています。日々の一つ一つの活動が充実していけるように、これからも楽しい活動を沢山計画していきたいと思います。









日帰り旅行
～ミシガンで行く琵琶湖クルーズ～

第二あゆみの家　生活支援員　田中千恵





今年度、第二あゆみの家日帰り旅行は滋賀県にあります琵琶湖汽船、ミシガンクルーズの体験とホテルでの豪華な食事に行きました。昨年までは感染防止の為、食事と買い物のみと楽しみが少なかったのですが、コロナ禍緩和に伴い、非日常体験を計画しました。

当日、若干の曇り空ではありましたが、全員での参加が叶いました。皆で観光バスに乗り込み、周りの方々に見送られいざ出発！道中カラオケを楽しみ、景色を眺め琵琶湖汽船に到着。乗り気なセレモニーでワクワク感を胸にいざ琵琶湖クルーズの旅へ！

皆さんは人生で船に何回乗ったことがありますか？私は今回で二回目です。前回の記憶は薄く、楽しみ半分怖さ半分といった心持でした。そんな中、船内の利用者の方の姿は、風を感じ景色を楽しむ方、船内の喫茶スペースで食事を楽しむ方、貸衣装を着てポーズを決める方、初めは怖くて動けなかったけれど最後は皆と笑い合っていた方と様々でした。







次はみんなが楽しみにしていた豪華な食事です。滋賀県特産の近江牛や琵琶湖で育った魚料理を頂きました。食事を楽しんだ後は近接のアミューズメント施設アーカスでお買い物です。皆さんお土産やおやつ等沢山買っていました。

帰りのバス内では眠られている方もみえましたが、旅の醍醐味サービスエリアへの寄り道は逃せないと、皆で降りておやつを食べました。長いようで短い一日でしたが楽しい思い出と共に無事帰園することが出来ました。

後日利用者の方から「船に乗ったよ、楽しかった」という感想を聞いて、今後も楽しんで頂ける外出を提供できる様、努めていきたいと思いました。

みんなで、それぞれで「そなえる」

災害等対策委員会　橋本　聖子

地震、台風、大雪などの他に、近年ではゲリラ豪雨による浸水被害も頻繁に聞かれるようになりました。今年の九月には、千葉県や名古屋市では線状降水帯の発生による豪雨災害が起き、家屋や田畑の被害の他に、アンダーパス（道路や線路の下を通る地下道）などで亡くなった方もおられました。今や災害は特別な事ではなく、私たちのすぐ身近で起きる、日常的なこととして日ごろから十分な備えをしておくことが大切だといわれています。

あゆみの家の災害等対策委員会は、このような災害による被害を最小限に止めるための対策を法人全体で考えていく委員会です。各事業所での避難訓練の内容を共有したり、夏は水害、冬は大雪への備えなど、テーマを決めて委員会で研修などを行っています。

九月三日には南海トラフ大地震・震度六強の大きなゆれを想定した、年一回の総合防災訓練を実施しました。あゆみの家は垂井町、養老町、大垣市とあちこちに事業所がありますので、本部事務所の前に「災害対策本部」を設置し、それぞれの事業所で利用者さんにケガはないか、建物の被害状況などを仮定し、報告をしました。



不破消防の方に
ご協力いただきました。

今年は初めて、各事業所の送迎中の対応や、道路の寸断などで帰宅困難者が出た時についても検討を行いました。川や橋が多いこの地域ですので、ご家族が迎えに来られないことも想定できます。各事業所で、ご家族との連絡方法や通所事業所の夜間対応についてなど、まだまだ課題があることを確認し、これからどんな備えが必要かを考えていきます。

あゆみの家は複数の建物が「福祉避難所」に指定を受けています。地域の住民の方も避難される可能性もあります。法人の利用者さんだけでなく、地域住民の方にとっても助けを求められる存在ですが、備えも訓練もまだまだ十分とは言えません。

災害はいつ起きるか分かりません。法人・事業所でできることも限りがあります。ご自身で、ご家族で、できる備えをしていきましょう。避難指示の基準も新しくなりました。ハザードマップの確認、予備のお薬の準備、避難場所の確認、ご家族間での連絡方法など、できそうなことからはじめていきましょう。



総合防災訓練（災害対策本部）

自分らしく働く、地域で生きる

～つながりが育む障害者雇用の輪～

西濃障がい者就業・生活支援センター
主任就業支援ワーカー　柳　葉子

私たち西濃障がい者就業・生活支援センターは、障がいのある方が地域の中で働き、その人らしい生活を送ることができるよう、日々伴走支援を行っています。今回は、当センターで最近取り組んだ地域でのつながりを広げる二つのイベントを紹介します。

まずは、当センターの登録者で現在働いている方を対象にした在職者交流会です。フィンランド発祥のスポーツ「モルック」を通してコミュニケーションを学ぶ目的で企画しました。当日は、初めて顔を合わせるメンバー同士でチームを結成し、目標の点数を目指しました。未経験の人もいれば得意な人もおり、ゲームは当然思い通りには進みません。上手くいくこともあれば、あと一歩で悔しい思いをする場面もありました。しかし、何より印象的だったのは、参加者の皆さんから**「すごい！」「ナイス！」「ドンマイ」「次がんばろう」「次は自分が頑張るよ」**といった前向きな言葉やジェスチャーが、自然とたくさん飛び出していたことです。日頃からそれぞれの職場で周囲とコミュニケーションをとり、一生懸命に業務に励まれている経験が、この場所でも見事に活かされているのだと、私たち支援者自身も多くの気づきをいただく機会となりました。

また別の日には、「企業と福祉の繋がり」をテーマにした会議を開催しました。当日は企業・福祉・教育・行政の関係者が一堂に会し、障害者雇用に関する企業側と福祉側それぞれの取り組みや支援内容を紹介し、その後にグループワークを行いました。

これまで西濃圏域では、こうした異なる分野の関係者が同じ会議に出席することはあっても、同じテーブルでじっくりと意見を交わす機会は多くありませんでした。ネットワークの第一歩はお互いを知ることです。グループワークでは、日々の業務内容だけでなく、それぞれが抱えている課題や率直な思いを共有し合いました。時間が足りなくなるほど活発に意見が交わされる姿に、分野の垣根を超えたつながりが今後も続いていくという確かな期待が持てる時間となりました。

「仕事を任せてもらえるのが嬉しい」
『いつもありがとう』と言ってもらえることがやりがいになる」
「お給料を好きなことに使える」

といった声が登録者の方たちから届いています。障がいのある方が仕事に誇りを持って頑張る姿と、企業や地域、支援者が雇用に向けて手を携えていく姿。この両輪が重なり合うことこそが、その人らしい豊かな生活の実現へとつながっていきます。これからも誰もが安心して働き、暮らせる地域づくりを目指し、皆さまと共に歩んでまいります。



出来事ピックアップ



8/1　(土)　夏祭り
【林町デイセンター】



9/19(土)　うりんこ観劇会
【デイセンターあゆみの家】



9/22(火)　シルバーウィークお楽しみ昼食会
【きずな】



9/25(金)　ドリーム1日外出
【ぐっどらんど】



10/8(木)　日帰り旅行京都
【林町デイセンター】



10/11(日)合原小学校運動会
【第二あゆみの家】

林町デイセンター　〒503－0015　岐阜県大垣市林町7丁目142－1　／　TEL0584－47－9920

最近のできごと　(8／1～10／31)

法人全体

10/31（土）５５周年記念式典・あゆみの家祭

デイセンターあゆみの家

8/21（金）岐阜金華篠笛会演奏会
9/15（火）あじさいG喫茶外出
　　OS アンサンブル演奏会
9/16（水）表佐小アルミ缶回収
9/19（土）うりんこ観劇会
9/25（金）サボテンG昼食外出
9/28（月）オリーブG、たけのこG昼食外出

ぐっどらんど

8/ 1（土）綾里地区センター祭り
9/ 7（月）ホープ１日外出
9/19（土）観劇会（デイセンターあゆみの家にて）
9/25（金）ドリーム１日外出
9/28（月）グッディ１日外出

林町デイセンター

8/ 1(土)　夏祭り
9/ 8(火)、9/10(木)喫茶外出
9/15(火) ポップコーンＧ昼食作り
9/19(土) お月見レク＆カラオケ外出
10/ 8(木) 日帰り旅行(京都)
10/17(土) ハロウィン&BBQ

第二あゆみの家

8/ 1(土)　夏祭り
9/12(土)　運動会
9/25(金)　いちょうＧ喫茶外出
9/29(火)　なのはなＧ一日外出
10/11(日)　あいはら小学校運動会参加
10/16(金)　ふじＧ一日外出

きずな 2006・2025

9/22(火)　シルバーウイークお楽しみ昼食会
10/10(土)　大垣友の会　料理教室
10/18(日)　栗マルシェ
10/23(金)　橋爪西ホーム　京都日帰り旅行
10/25(日)　チャレンジダンス

西濃障がい者就業・生活支援センター

8/28(金)　岐阜県ナカポツ連絡協議会
9/ 5(土)　第１回、第２回 登録者交流会
10/ 6(火)　第２回 ネットワーク会議
10/26(月)　岐阜地域 障がい者就職面接会

行事予定

12/19(土) クリスマス祝会
12/25(金) 大垣ルーテル教会にて礼拝(職員参加)

ボランティア　(8／1～10／31)

8/18(火)、9/29(火)、10/13(火)
　個人ボランティア　ダンス(林町デイセンター)
8/21(金)　金華篠笛会３名(ﾃﾞｲｾﾝﾀｰあゆみの家)
9/15(火)　OS ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ風６名(ﾃﾞｲｾﾝﾀｰあゆみの家)
10/27(火) オカリナの会５名(林町デイセンター)
8/1、28、9/4、10、11、17、18、10/9、16、23、30
　個人ボランティア１名（林町デイセンター）

ふれあい交流　(8／1～10／31)

8/1（土）綾里地区センター祭りステージ発表
（ぐっどらんど）

編集後記

あゆみの家は今年で 55 周年を迎えます。支えてくださった全ての皆さまありがとうございます。
第二あゆみの家にある壁画は、聖書の中の「99 匹の羊」の箇所を描いています。なんと 5 万個のタイルが使われており、私は 55 年の間に関わってくださった全ての方が、そのタイル１つ１つに感じています。タイル１つが欠けても壁画が完成しないように、あゆみの家もそれぞれの役割や立場の関わりがあって今があるのだと、感謝の思いでいっぱいです。（神﨑　愛子）

編集：社会福祉法人あゆみの家
〒503−2123　岐阜県不破郡垂井町栗原2066−2
Tel0584−22−4333（代）　FAX0584−22−4344
URL https://ayumi-ie.com/
E-mail　ay464h@he.mirai.ne.jp

グループホームのご案内

●めぐみホーム　不破郡垂井町表佐
●東神田ホーム　不破郡垂井町東神田
●別庄ホーム　養老郡養老町橋爪
●橋爪ホーム　養老郡養老町橋爪
●表佐ホーム　不破郡垂井町表佐
●あいかわホーム　不破郡垂井町

AYUMI_IE_GIFU
公式 Instagram